

第 33 回火山噴火予知連絡会 議 事 録

日 時：昭和60年2月15日(金) 14時～17時

場 所：気象庁第1会議室

出席者：委 員：下鶴，横山，高木，行武，渡部，青木，久保寺，加茂，太田，小坂，別所^{*}
(科技厅)，谷川^{*}(国土庁)，飯田^{*}(文部省)，小野，井上^{*}(地理院)，
佐藤，高橋，河村，山川，市川^{*}(気象研)，原田。

注) *印：委員の代理出席，()内は所属

オブザーバ：鉢嶺(国土庁)，吉川，湯本(文部省)，東浦(科技厅)，熊谷(防災セ)，
吉田，中村，小宮(気象庁)，田中(気象研)。

庶 務：金沢，横内，永福，山本，岩下，宇平。

議 事

1. 第32回連絡会議事録(案)は異議なく承認された。

2. 最近の火山活動

2.1 桜 島

横内(気象庁)：活動経過

加茂委員：爆発回数，地震発生状況および光波測量結果等について

原田委員：地磁気観測結果について

谷川(国土庁)：桜島火山対策懇談会の開催状況について

2.2 阿蘇山

横内(気象庁)：活動経過

久保寺委員：最近の火山活動状況と火山性地震および火山性微動について

原田委員：地磁気観測結果について

太田委員：阿蘇火山栃ノ木温泉の炭酸ガス濃度の推移について

下鶴：阿蘇山の火山活動について(コメント)

阿蘇山の火山活動についての会長コメント

「阿蘇中岳第一火口は，昭和54年の活発な噴火活動のあと，55年2月以降長期的に全面湯溜りとなり火山活動は穏やかに経過してきたが，昨年8月ころから湯溜りは減少が目立ち始め，10月25日午前中には東側火口壁下の新しく開口した火孔から断続的に火山灰をまじえた噴煙と拳大の噴石をふき上げた。さらに，本年1月中旬から火口底中央部よりやや西よりに開口した火孔で火山灰を含んだ噴煙と火炎が観測されるようになった。1月18日の噴出物の分析では，古いものにまじって新鮮な火山灰も含んでいることが判明した。

地下の活動度を示す火山性地震や火山性微動などには，今のところ大きな変化はなく，火山性連続微動の振幅も比較的小さい。

上記のような現象からみて今後も火山活動の推移を注意深く監視していく必要がある。」

2.3 伊豆大島

横内（気象庁）：①最近の地震活動状況

②大島の歪観測とステップ状変化等

行武委員：三原山火口周辺の電気抵抗変化および伊豆大島における全磁力変化について

渡部委員：水準測量と三原山火口内部の熱的調査

小野委員：ドライテイルト観測用水準網の増設について

高橋委員：大島南部における傾斜観測について

2.4 雲仙岳

横内（気象庁）：群発地震の活動経過

太田委員：1984年8月6日島原半島に発生した地震の最近の状況について

2.5 霧島山

横内（気象庁）：最近の火山活動状況

2.6 御岳山

小坂委員：噴気孔ガスの温度と化学成分の変化について

2.7 鶴見岳

久保寺委員：鶴見岳観測室の設置について

2.8 九重山

横内（気象庁）：最近の地震活動について

2.9 箱根山

横内（気象庁）：最近の地震活動について

2.10 北海道の火山

樽前山

横山委員：最近の地震活動について

有珠山

横山委員：最近の地震活動について

摩周

横山委員：臨時地震観測について

2.11 諏訪之瀬島

横山委員：御岳火口（B火口）の熱分布について

2.12 浅間山

田中（気象研）：浅間山麓の伸縮について

2.13 三宅島

小野委員：阿古地区、パイプ孔および温度観測井による温度測定とその経日変化について

井上（地理院）：三宅島の上下変動について

下鶴委員：噴火前後の上下変動パターンと海底地形や航空磁気測量結果との関連性について

2.14 草津白根山

原田委員：地磁気観測結果について

渡部委員：地震の発生頻度と震央分布（草津白根山集中観測）について

2.15 硫黄島

高橋委員：最近の地震活動と地殻変動について

3. その他

(1) 次回連絡会開催期日

火山学会は5月21日、22日、23日に開催される予定になっているので、20日（月）か24日
ころを予定しているが、後日おはかりしたい。

(2) 提出資料

大島地域の地質 地質調査所 小野委員

火山ガス測定による噴火予測に関する基礎研究

..... 文部省科学研究費 自然災害科学総合研究班 小坂委員

火山基本図（雲仙岳、霧島山の地表面温度分布） 国土地理院 水野委員

〔 17時00分～17時30分 記者会見 気象庁記者室 〕